



武士道の精神で真摯な環境事業 に取り組み。運と出会いに 支えられたモノづくりで成長。

廃棄物の破碎・粉碎機、空気を浄化するオゾンの発生器、入浴の付加価値を高める炭酸泉装置など、多彩な環境事業で社会に貢献する商研グループ。モノづくりを天職に新しいアイデアや発想をカタチにし続ける小澤会長に話を聞きました。

商研株式会社
取締役会長

小澤 宏海 さん
(おざわ・ひろみ)



広島県江田島市出身。工業高校の電気科を卒業、モノづくりの道へ。さまざまな経験を重ね、製造販売の会社を立ち上げる。休日も電子回路を趣味で創るなど、生粋の技術人。

商研株式会社 <http://www.sk-world.com>

焼肉店の金網が 飛躍の契機に

江田島で生まれ、高校は広島県立広島工業高校へ進学のため、広島市内に暮らし始めた。それからずっと広島ですわ。子どもの時はアマチュア無線、完成した機械は少なく、部品を集めて自分が作る。それでモノづくりを好きになった。社会に出る時も、自分は雇われるのには向かん、思ったことは口に出すからね、いろいろなことをやりましたよ。今の会社を20年前に立ち上げ、破碎機や粉碎機を海外から輸入、それを取引先の要望にカスタマイズすることで売りよった。合わせて会社の飛躍を支えたのは、焼肉店で使う金網。以前はステンレスの高価な網を洗って繰り返し使うのが普通。私は疑問に思ったね。炭や焦げを落とすためには、環境に悪い薬品も必要だった。その網を安く仕入れ使い捨ての網を提案、これがヒットしたんです。全国シェアの半分ぐらいは当社の網。捨てた網は回収後にリサ

自社開発で モノづくり

イクルする仕組みと合わせ、飛躍の契機になりましたね。

網は仕入れて売るだけ。それだけでは駄目と破碎機の事業と並行させましたが、さらに自社開発の製品として、オゾン発生器の製造販売に着手。これも他社の製品を研究しているうち、もつと安く簡単にならんかと考えたのが始まりですよ。これが好評で大きな企業や施設から引き合いがあり、当社事業の柱にもなっています。さらに家庭でも炭酸ガスの湯が楽しめる人工炭酸泉製造装置を開発、健康需要を背景に数字を伸ばしています。日本人はね、ベースになるモノを改良、完成度を上げるのは優れとる。しかし海外のようにゼロから発想して、新しい技術を生み出すのは、まだまだじゃないかと思う。今までにないモノづくりにはヒラメキという能力が大切。それが新しい進歩を創る、大きな差になりますね。

武士道の精神 と出会いを 大切に

私がこれまで大切にしてきたのは、人を騙さない、嘘をつかない、結果は自己責任の武士道精神。だからこそ私から胸を開き、出会いを重ねてきました。それが運の良さにもつながった。今があるのは幸運と人の出会いですよ。炭酸泉の製造設備も、社外の本職ではない仲間と一緒に誕生させた。現在は新しいプロジェクトを佐賀大学と産学協同で進めています。これは大型プラントに頼らず濾過できる画期的なフィルターで、当社グループの商研テクノが上場を果たせる技術として期待を寄せています。2019年に商研は新社長へバトンタッチでき、これからはもつとモノづくりに専念したい。独自の業績が評価され、東久邇宮国際文化褒賞も受けました。まだまだ現役ですよ。



海外から輸入した破碎機をベースに自社でアレンジ。環境配慮の時代を見据えた事業で安定成長を目指す。